



平成27年度秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」の展示室の様子

今回、新たに製作したキトラ古墳天井天文図の複製陶板に、解説映像を投影し展示した。本物の壁画ではできない展示手法により、来館者にもわかりやすいと好評であった。

本文10頁参照（撮影：栗山雅夫）

三徳山三佛寺所蔵江戸時代青銅鏡の調査

三徳山三佛寺に所蔵されている江戸時代青銅鏡の考古学的調査と非破壊分析調査をおこなった。

錫、アンチモン等の含有比から、組成が大きく三群に分けられることがあきらかになった。

(写真は上から右に本文中表5資料番号1～11・16)

本文16頁参照（撮影：栗山雅夫）





飛鳥寺塔心礎出土刀子

飛鳥寺塔心礎出土刀子について再調査をおこなった結果、多様な材質の装具が用いられていることがあきらかとなった。

上段：飛鳥寺塔心礎出土刀子集合

下段左端：漆状塗膜細部（資料2）

下段中左：鹿角細部（資料6）

下段中右：毛皮細部（資料8）

下段右端：銀製装具細部（資料9）

本文18頁参照（撮影：栗山雅夫）

北口本宮富士浅間神社拝殿

富士山の北東山麓に位置する北口本宮富士浅間神社には、本殿・東宮本殿・西宮本殿をはじめ多くの建造物が建ち並ぶ。このうち幣殿及び拝殿など9棟は、江戸時代中期に、江戸の商人・村上光清が主導した富士講により建立された装飾豊かな建造物である。甲斐国郡内地域の大工が技術の粋を注ぎ、今日まで続く富士信仰の境内空間の根幹を形成した。

本文48頁参照（撮影：杉本和樹）





鳥取県若桜町若桜伝統的建造物群保存対策調査

鳥取県若桜町若桜は鳥取県の南東部、兵庫県との県境に位置し、周囲を山に囲まれる。近世初頭の城下町から宿場町へと変化してきたが、明治の大火により、全焼し、その後に防火対策を意識した町づくりをおこなってきた。現在もカリヤと呼ばれる差し掛けや通りに面して立ち並ぶ土蔵により、伝統的な町並みを形成している。写真は鬼ヶ城より若桜宿の様子。本文50頁参照(撮影:杉本和樹)



檜隈寺周辺の調査 (飛鳥藤原第184次)

調査地は檜隈寺伽藍から南東に位置する。調査区中段部では古代と推定される掘立柱建物および掘立柱塀を確認した。調査区頂部、下段部でも中世と推定される掘立柱建物を確認し、伽藍周辺部での利用状況の一端があきらかとなった。南東から。

本文108頁参照 (撮影：栗山雅夫)

藤原京右京八条二坊の調査

(飛鳥藤原第185-7次)

調査地は藤原京右京八条二坊の西辺、本薬師寺旧境内の東辺中央部にあたる。西二坊大路の東西両側溝および八条条間路南側溝を検出した。西二坊大路東側溝と八条条間路南側溝は逆L字状に接続する。北から。

本文80頁参照 (撮影：栗山雅夫)





藤原宮大極殿院の調査（飛鳥藤原第186次）

調査地は大極殿基壇と大極殿南門の間にあたる。藤原宮期の礎敷広場を広く確認したほか、大極殿南面階段の一部と考えられる痕跡や、宮造営期の運河、南北溝、斜行溝を検出した。また、調査区北西部では奈良時代から平安時代までの遺構群も確認した。南から。 本文62頁参照（撮影：栗山雅夫）

階段痕跡SX11326と凝灰岩片

調査区北端で検出した大極殿南面東階段の痕跡。二上山凝灰岩の切石底部が凸字型に配置されていた。南から。周囲からは二上山凝灰岩（下写真右）の他に、竜山石の欠片（下写真左）も出土した。（撮影：飯田ゆりあ・栗山雅夫）



図版 6



右京一条二坊四坪・二条二坊一坪・一条南大路の調査(平城第530次)
一条南大路SF3300と南北両側溝SD3301・3302を検出した。手前左から右に斜めの黒色土は、斜行大溝の埋め立て土。奥に見える2棟は奈文研の仮庁舎。東から。本文124頁参照(撮影:中村一郎)



斜行大溝SD3320を埋め立てた
上層の敷葉・敷粗朶

斜行大溝SD3320の埋め立てに敷葉・敷粗朶工法が用いられた。一条南大路SF3300部分はとくに丁寧に粗朶が敷かれている。北東から。(撮影:中村一郎)



西一坊大路の調査(平城第546次)

西一坊大路西側溝SD2530と一条南大路北側溝SD3301を検出し、変遷過程が明らかになった。調査区北方では平安時代の建物群を検出した。南から。本文124頁参照(撮影:杉本和樹)

東大寺東塔院跡の調査

(平城第550次)

七重塔の基壇東北部、およびその外側の基壇周囲裾部などを調査した。基壇上で巨大な礎石抜取穴を検出し、基壇周囲には凝灰岩製延石列(基壇外装の最下部)がほぼ完存していた。また、その外側には階段の突出と幅を揃える石敷きが良好な状態で遺存していた。北東から。

本文182頁参照(撮影:栗山雅夫)



薬師寺東塔の調査

(平城第536・554次)

東塔は薬師寺が平城京へ移された奈良時代から伝わる唯一の建物。保存修理事業にともない基壇全体を調査した結果、創建時の基壇や周辺施設が良好に残されていた。上が北。

本文154頁参照(撮影:中村一郎)



創建時の基壇外装と玉石敷犬走り

基壇外装のうち、地覆石は花崗岩などを使用する一方で、羽目石は凝灰岩製であった。創建時には玉石敷犬走りの外側に乱石組雨落溝がめぐっていたと考えられる。北西から。(撮影:栗山雅夫)





興福寺中室・経蔵・鐘樓の調査

(平城第559次)

中室・経蔵の創建当初の建物規模と、その後の再建の様相が判明した。残存する礎石はほとんどが創建当初の位置を保っており、中室北縁では創建期とみられる凝灰岩製の基壇外装が良好な状態で遺存していた。中室・経蔵（A・B・C区）の全景。北から。

本文188頁参照（撮影：栗山雅夫）

経蔵北の石組溝

経蔵・鐘樓の北では、伽藍中軸線を挟んで東西対称の位置で石組溝や玉石敷を検出し、建物周辺の様相についても新たな知見が得られた。東から。 本文188頁参照（撮影：鎌倉 綾）



鐘樓西北部全景

鐘樓は、創建当初の規模は明確には確認できなかったが、少なくとも室町時代の再建以後は、経蔵と同規模であったと推定される。北西から。 本文188頁参照（撮影：栗山雅夫）

